

製品名: ATBF1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07255**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

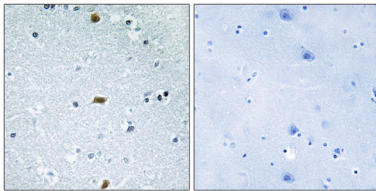
遺伝子名	ZFHX3
別名	ZFHX3; ATBF1; Zinc finger homeobox protein 3; AT motif-binding factor; AT-binding transcription factor 1; Alpha-fetoprotein enhancer-binding protein; Zinc finger homeodomain protein 3; ZFH-3
遺伝子 ID	463.0
SwissProt ID	Q15911
免疫原	抗血清はヒト ZFHX3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 761-810

背景

この遺伝子は、複数のホメオドメインとジンクフィンガーモチーフを持つ転写因子をコードし、筋形成および神経分化を制御します。コードされているタンパク質は、ATに富むエンハンサーモチーフに結合することで、 α -フェトプロテイン遺伝子の発現を抑制します。また、このタンパク質は c-Myb を負に制御し、細胞周期阻害因子であるサイクリン依存性キナーゼ阻害因子 1A (p21CIP1 としても知られる) を転写活性化することが示されています。この遺伝子は、いくつかの癌において腫瘍抑制因子として機能することが報告されており、この遺伝子の配列バリエーションは心房細動にも関連しています。この遺伝子には、代替プロモーターから発現し、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2009 年 9 月],機能:AFP 遺伝子のエンハンサーエレメントの AT リッチコア配列に結合する転写活性化因子。 ,PTM:DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による) 。 ,類似性:22 個の C2H2 型ジンクフィンガーを含む。 ,類似性:4 つのホメオボックス DNA 結合ドメインを含む。 ,サブユニット:FBNP3 と相互作用する。 ,

研究分野

画像データ



ZFH3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。